



2021年2月15日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 や ま や
代表者の役職名 代表取締役会長 山内英靖
(コード番号 9994 東証第一部)
問い合わせ先 執行役員経理部長 田原口裕基
T E L (022) 742-3114 (直通)

減損損失の計上および業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2021年3月期第3四半期連結累計期間において、減損損失を計上する見込みとなりましたのでお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、2020年11月10日に公表いたしました2021年3月期の通期連結業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 減損損失の計上について

新型コロナウイルス感染症拡大と、それに伴う飲食店の時短営業の要請を踏まえ、外食事業において評価性減損損失を計上した結果、当第3四半期連結累計期間において、10億79百万円の減損損失を計上いたしました。

また、当社の連結子会社であるチムニー(株)について、同感染症拡大等の外部環境の悪化を踏まえ、今後の計画を見直した結果、当初想定されていた収益が見込めなくなったため、当第3四半期連結累計期間において、同社に係るのれんの減損損失として64億2百万円を計上することとなりました。

これらにより、当第3四半期連結累計期間における減損損失は、74億81百万円となりました。

なお、こののれんの減損損失により、連結上の純資産は減少いたしますが、酒販事業における業績は良好であり、当社単体としての経営成績に及ぼす影響はございません。また、これにより、2022年3月期以降は、のれんの残償却期間である12年あまりに渡って、年間4億92百万円の償却負担がなくなります。このため、同期間中は、連結上の営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益を、押し上げる効果が見込まれます。

2. 2021年3月期 通期連結業績予想の修正 (2020年4月1日～2021年3月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想 (A)	155,114	161	1,143	45	4円15銭
今回修正 (B)	150,914	△2,338	△1,285	△8,926	△823円29銭
増減額 (B-A)	△4,200	△2,500	△2,428	△8,971	—
増減率 (%)	△2.7	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績	168,168	4,163	4,227	205	18円98銭

3. 修正の理由

新型コロナウイルス感染症に関して、当社グループの酒販事業においては内飲・内食需要を取り込めたことにより、当第3四半期連結累計期間の影響は軽微であります。

外食事業においては、緊急事態宣言解除以降、第2波と見られる同感染症の拡大時期を挟みつつも、売上高は徐々に回復しておりました。しかし、11月下旬になって同感染症は再拡大し、2020年4月～12月の外食事業における売上高は、対前年同期間に比較し、△65.7%と大幅な減収となりました。1月になると1都3県を対象に、新たな緊急事態宣言が発出され、対象地域は11都府県まで追加されるなどしたため、店舗営業時間の短縮等を余儀なくされております。これに加えて、お客様の生活様式の多様化に応じて、居酒屋業態を取り巻く環境も変化しており、当社グループの旧来の最大の強みであった大型店で高収益をあげるモデルから、食を中心とした総合サービスを提供する新しい業態への転換を図っております。これらの状況を踏まえ、外食事業の売上高が同感染症の拡大以前の水準に回復する時期を当初2021年6月頃と予測しておりましたが、その収束時期の見通しが不透明な状況が続いているため、2022年半ば頃に見直し、また収束後も既存店の売上高が同感染症拡大以前の水準までは戻らないものと仮定し、固定資産の減損損失の認識や繰延税金資産の回収可能性の判断を行っております。

この結果、上記の通り固定資産の減損損失74億81百万円（のれん64億2百万円、建物等10億79百万円）を計上し、繰延税金資産9億46百万円の取崩しを行っております。これにより前回予想値を下回ることとなりました。

なお、上記予想は、現時点で入手可能な情報および一定の前提に基づくものであり、実際の業績は今後様々な要因により変動する可能性があります。

以上